

Device Analysis of Thermally-Activated Delayed Fluorescence-Based Organic Light-Emitting Diodes Aimed for High Device Stability

田中, 正樹

<https://doi.org/10.15017/4060120>

出版情報 : 九州大学, 2019, 博士 (工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名	田中 正樹
論 文 名	Device Analysis of Thermally-Activated Delayed Fluorescence-Based Organic Light-Emitting Diodes Aimed for High Device Stability (熱活性化遅延蛍光分子を用いた有機発光素子の長寿命化に向けたデバイス解析)
論文調査委員	主 査 九州大学 教授 氏名 安達 千波矢 副 査 九州大学 教授 氏名 安田 琢磨 副 査 九州大学 教授 氏名 興 雄司

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、熱活性化遅延蛍光分子を発光材料として用いた有機 EL 素子に関して、種々の光学的・電氣的な解析手法を適用し、素子発光特性の劣化機構や分子配向の起源を明らかにしている。本研究は、有機 EL 素子の高性能化のための指針だけでなく、有機分子の励起状態ダイナミクスや薄膜形成過程について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。